

今日の説教のポイント <使徒言行録 20 章 25～38 節>

①本当に聖書信仰を理解した時、悩みはあってもその質が変わる！

パウロがエフェソの教会の長老たちに語った告別説教です。ここを読むと、彼が生涯の最後まで、自分に負わされた務めのことで頭が一杯であったことを思われます。私もそうでしたが、私たちは普通、何か問題に当たってその解決を求めて教会の門をたたきます。しかし、本当に聖書が語りかけていることを聞いたなら、自分が抱えていた悩みの解決より、もっと大きなこと、もっと大事なことを知らされるはずです。そのことによって、最初に抱えていた悩みが相対的に小さなものになっていることに気づかされるはずです。ここでパウロはその大きなこと・大事なことを「御国」(25)、「神の御計画」(27)、「神が御子の血によって御自分のものとなさった神の教会」(28)などと表現し、それを伝えようとしています。それは、私たちのことを愛してやまない神様がおられるという事実です！ このことを知らずに生きる人生から、知って生きる人生に変わる時、私たちの悩みは私一人で抱えて生きる悩みではなく、この神様と共に考え悩む悩みに変えられていくのです。悩みや心配があっても、もはや前とは違うのです！

②神様が与えて下さった聖書の御言葉に聞いて生きる！

では、この神様と共に生きられる具体的な仕方は与えられているのでしょうか。与えられています。パウロはそのこともはっきり語っています。「そして今、神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます。この言葉は、あなたがたを造り上げ、聖なる者とされたすべての人々と共に恵みを受け継がせることができるのです」(32)。

自分無き後のエフェソの教会のことを心配しているパウロ。しかし心配しているだけではありません。「神様が与えて下さった聖書の言葉がある」と思ってもいるのです。「聖なる者とされた」とは「神様のものとして分かたれた」という意味です。信仰者はもう神様のものとされた者たちなのです！ 神様が与えて下さった聖書の御言葉に聞いて生きる、これを大事にして行くなら大丈夫なのです！